



明日6日(火)は休校です

安心安全メールでお知らせしたとおり、**明日6日(火)**は子供たちの登校時間帯に台風が暴風域を伴って通過し、風・雨共に心配されるため、熊本市立学校(園)は一斉に**臨時休校**となりました。台風は非常に強い勢力で九州西海上を北上し、6日未明から明け方には熊本県に最も接近する見込みです。台風が予報円の中心付近を進みますと、熊本県の早い所では、15メートル以上の強風域に、6日未明に風速25メートル以上の暴風域に入る見込みです。今後も気象情報に注視していきましょう。

ヘクトパスカル(hPa)とは?

さて、天気予報では、晴れや雨のような空模様のほかに、気温や風速、気圧の高さなどさまざまな気象情報を伝えています。ヘクトパスカルは気象情報の中で「気圧」を表す言葉です。国際的な基準では、地上0m 地点の大気の圧力を「1気圧」としています。1気圧は1013.25ヘクトパスカルです。ただし、天気予報で使われる「低気圧」は、1気圧より低いかどうかではありません。高気圧や低気圧は、周囲の気圧と比べて「高い」か「低い」かを表している言葉なので、気を付けておきましょう。

空気には薄い方へ移動する性質があり、低気圧の部分には周りから多くの空気が流れ込みます。流れ込んだ空気は、行き場を失うと上昇気流となって上空へと向かいます。上空の冷気によって空気中の水蒸気が水や氷に変化し、集まったものが雲の正体です。低気圧が来ると天気が悪くなるのは、上昇気流によって雨雲が発生するためです。高気圧では全く逆の現象が起こるので、天気がよくなります。

低気圧が発達して周囲との気圧の差が開くほど、風も強くなるのです。発達した低気圧にはたくさんの空気が集まるため、上昇気流の規模も大きく、大量の雨を降らせることもあります。赤道付近で発生した低気圧(熱帯低気圧)が発達し、低気圧域内の最大風速(10分間平均)がおおよそ17m/秒以上のものが「台風」です。

一般的には中心気圧が低い台風ほど、風や雨が強まる傾向にあります。1959年の「伊勢湾台風」では、中心気圧が929ヘクトパスカルにまで低下し、4万人以上の死傷者を出す大災害となりました。

このように、中心気圧を見れば台風の規模がある程度推測できます(下表参照)。ただし、台風による風の強さは「台風の進むスピード」も関係し、雨の目安は、中心気圧が何hPaかではなく、海からもらう「暖かく湿った空気」など、雨が降る条件が揃うかどうかで決まります。いずれにせよ、今後も台風情報をしっかりと把握する必要があります。

過去50個の台風の中心気圧(hPa)と最大風速との関係

台風の階級	最大風速	中心気圧 (ヘクトパスカル)
強い	33m/s~44m/s	950hPa~965hPa
非常に強い	44m/s~54m/s	915hPa~950hPa
猛烈な	54m/s~	870hPa~920hPa